

## 精神障がいを持つ女性が結婚・出産・子どもとの関わりを通して 他者から受けたエンパワメントの主観的体験

<博士論文要旨>

村方多鶴子

### 1. 目的

精神障がいを持つ母親へ支援を行っているスタッフの実践への示唆を得るために、精神障がいを持つ女性が、結婚・出産・子どもとの関わりを通して、他者から支援を受けながらどのようにエンパワメントを体験しているのかを明らかにし、記述することを目的とする。

### 2. 方法

研究対象者は精神障がいを持つ 20～50 代の母親とした。対象者の募集は、研究対象者が利用している施設責任者に本研究の協力を依頼し、紹介を受けた。データ収集は半構造化面接法を用い、同意後 IC レコーダーに録音した。研究方法は継続的比較分析を用いた質的記述的研究方法である。本研究は、聖路加看護大学研究倫理審査委員会の承認(承認番号 13-066)を得て実施した。

### 3. 結果

研究対象者は 11 名で、年齢は 20～60 代であった。診断名は統合失調症 7 名、双極性障がい 1 名、うつ病 3 名で、全員が発病後に出産をしていた。現在既婚者 7 名、離婚している母親 4 名であった。

精神障がいを持つ女性が結婚・出産・子どもとの関わりを通して他者から受けたエンパワメントの主観的体験とは、《母親であり続けたいという思いを引き出し保証され続ける体験》であった。

本研究の対象者は精神疾患を発病後、【人生に絶望し自信がないからやりたいことを決断できないが、幸せになるために自分で決めていいと気づかされる】体験をしていた。その後、対象者は大事な子どもを守るべき状況に陥り、【不安になることもあるが、決断を保証されると心強くなり、行動を起こすことができる】ようになった。しかし、行動を起こして何とかやっていた後に危機状態に陥り、【病状悪化で子育てに自信をなくすが、サポートを受けると子どもに関わりたいたいという思いを引き出され、子育ての辛い時期を何とか凌ぐ】体験をしていた。つまり、支援者が親身に関わり、元気づけることで、母親は子どもに関わりたいたいという思いを引き出されていた。対象者は、子どもの笑顔や成長がエネルギーとなり、あるいは頑張っていることを認められ、【何かあればずっと助けてもらえることで、十分なことができなくても自分が子どもを育てていきたいと思う】体験をしていた。

### 4. 結論

対象者は、精神障がいを発病後、躓く体験を繰り返して人生に絶望するパワレス状態に陥っていたが、障がいを持つありのままの自分を受け入れられると、自己決断をする権利があることに気づき、希望を持つことができるようになったことが示唆された。また、決断したことを行動に起こし、危機状態に陥ることもあったが、自信が揺らぎながらも、支援者から継続したサポートを得ることで母親として少しずつ自信を獲得していた。つまり、対象者は他者との関わりを通してエンパワメントされ、《母親であり続けたいという思いを引き出し保証され続ける体験》をすると、十分な自信はなくとも、自分が子どもを育てていきたいと思うまで成長していたことが示唆された。

## Keeping a Stout Heart:

### Empowerment for Mothers with Mental Illness through Other's Support

#### Abstract

##### 1. Purposes

The purpose of this study was to describe the subjective experiences of empowerment, for women with mental illness, received from others support through marriage, delivery, and relationships with their children.

##### 2. Methods

This was a descriptive survey using convenience sampling to recruit participants from mental health clinics and home-visit nursing station. The author conducted one-to-one semi-structured interviews with participants. Continuous comparison analysis was used in this qualitative study. The study received approval (13-066) through the Ethical Review Board of my university.

##### 3. Results

The 11 participants were between the ages of 20-60 years. All delivered after onset and diagnoses were schizophrenia (7), bipolar disorder (1), and depression (3). Seven mothers were married, and four were divorced.

Four themes were revealed: [the experiences of noticing their rights to self-determination in order to be happy although they could not decide what to do because they lost their confidence in their life]; [the experiences of becoming courageous and taking action when their decisions were guaranteed in spite of anxiety]; [the experiences of wanting to associate with their children and surpassing the painful parenting time when they received support though they had lost their confidence in child-rearing because of their disease progression] and [the experiences of currently wanting to raise their children, although before they could not raise their children sufficiently, because now they had supporters help if anything happened]. The core category was 'the experience of keeping a stout heart' to continue being a mother by supporters' assistance.

##### 4. Conclusion

The participant fell into a state of powerlessness after the onset of their disease. However they were empowered through the cooperation with their supporters, and gradually they gained confidence as a mother in spite of multiple crises.